

令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【指扇中学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	
思考・判断・表現	
主体的に学習に取り組む態度	

次年度に向けて
(3月)

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「知識・技能」において2pt向上させる。R5年度全国学力・学習状況調査において、国語の正答率を70%、数学の正答率を55%を上回る。	⇒ 「ドリルパーク」や「スタディサプリ」等を活用し、言葉の使い方や特徴に関する事項、基本的な計算等の反復・習熟を行う。その際、生徒の学習履歴を確認し、定期テスト前に補習を行う。
思考・判断・表現	R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より、国語・数学の「思考・判断・表現」において2pt向上させる。R5年度全国学力・学習状況調査において、国語の「話すこと・聞くこと」において、70ptを上回る。	⇒ 生徒が作品・レポート等に取り組む際、教師側の評価の観点を示し、生徒が思考したプロセスに対するコメントを付記して、評価する。「ミライシード」や「Teams」など活用して、教師と生徒や生徒同士の思考の共有化を図る。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査とさいたま市学習状況調査の「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目において、肯定的な回答の割合を80%以上にする。	⇒ 授業において、生徒とともに必要感のある課題を設定し、解決の見通しをもたせ、自力解決する場を設定する。また、授業中に必ず自己の振り返りができる時間を設定する。

目標・策の設定
(4月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	調査結果分析(2月) ①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)	
思考・判断・表現	①結果分析(管理職・学年主任等) ②詳細分析(学年・教科担当) ③分析共有(児童生徒の実態把握)	
主体的に学習に取り組む態度	結果提供(2月)	

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析		
知識・技能	国語では、言語や情報の扱いにおいて全国平均を4pt以上上回ることができたが、言語文化に関してのみ1pt下回った。平均正答率は73%で目標の70%を上回ることができた。数学では、関数が7pt上回り、数と式、图形とも5pt上回ることができた。しかしデータの活用のみ0.3pt下回った。正答率は55%で目標を達成できた。英語では、書くことが13pt、聞くこと、読むことがともに9ptとすべての領域で大きく上回った。それぞれの観点の評価においても2pt~12ptと幅はあるが、すべて上回ることができて着実に力を付けつつある。	①児童生徒による振り返り
思考・判断・表現	国語では、話すこと・聞くこと、書くことにおいて全国平均を4pt以上、上回ることができた。話すこと・聞くことの正答率も86%で目標の70%を大きく上回ることができた。評価の観点の部分でも73%と全国を4pt上回っている。数学では、思考・判断・表現が5pt上回る47%の正答率であった。英語では、8pt以上上回る47%の正答率であった。平成31年度と比較しても全国の正答率は8pt以上向上している。	②児童生徒による振り返り
主体的に学習に取り組む態度	普段の授業への取り組みの様子から、前向きに取り組む生徒の状況は感じられているが、全国学力・学習状況調査の、「1,2年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。」の問い合わせに対して、肯定的な回答をした割合が90%で全国平均の79%を11pt上回っている。目標では、80%以上としていたので達成できており、さらに策にのつづった主体的な学びを意識した授業を展開していくたい。	③児童生徒による振り返り

調査結果分析(7~8月)

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)
- ③分析共有(児童生徒の実態把握)

④ さいたま市学習状況調査 <小3~中3>(1月)	
中1	
中2	
中3	

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	中間評価(9月) 目標・策の見直し	⇒ 変更なし
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし